

「東北復興スタディツアーinいしのまき」後継プロジェクトがついに始動！

# 「東北復興・創生プロジェクト 2018 いしのまき&ふくしま」

(成蹊大学ボランティア支援センター×日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo))

## 参加者募集 (2次募集) 要項

2017年11月

### 1. はじめに

ボランティア支援センターでは、2016年と2017年の2月に「東北復興スタディツアーinいしのまき」として、宮城県石巻市を実地で訪問し、東日本大震災の被災の状況と復興へ向けての取り組みを自分たちの眼で見て、これから自分たちに何ができるのかを考えることを目的に開催しました。

今年度は装いを新たに、「東北復興・創生プロジェクト」とリニューアルし、日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvo)との共同プログラムとして実施を決定。これまで訪れていた宮城県石巻市に加え、新たに福島県でのプログラムを実施することになりました。

2018年2月に現地訪問を予定。事前・事後の活動も含めた継続的なプログラムとして実施します。是非奮ってお申し込みください。

### 2. 日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo) とは？

公益財団法人日本財団学生ボランティアセンター (通称 Gakuvo) は、全国規模で学生のボランティア活動を支援する希少な団体です。学生の活動を支援することで、今の日本が抱える様々な社会問題の改善に貢献しています。同時に、20年後の社会を担う人たちが、社会問題を「他人事」ではなく「自分事」と考えて行動する意識を持ち続けてくれるための動機づけを目指した人材の育成を行っています。

※ウェブサイト：<http://gakuvo.jp/>

### 3. プロジェクトについて

#### (1) 概要

宮城県石巻市で行われるプロジェクトと、福島県（いわき市～伊達市）で行われるプロジェクトの2つを実施します。

プロジェクトは、2回の事前学習会、直前ミーティング、現地プログラム、直後ミーティング、事後学習会、成果報告会で構成されます。いしのまきプロジェクトまたはふくしまプロジェクトの原則いずれかを選択し、事前学習会から成果報告会に至るプロセスに関わっていただきます。

#### ①いしのまきプロジェクト

- ・日程：2018年2月8日（木）～10日（土） 2泊3日
  - ・目的：これまでのスタディツアーを通じて関わりを持つことのできた仮説住宅・復興公営住宅の方々との交流を継続するとともに、交流を軸に「コミュニティと支えあい」をテーマに考察する。
- また、石巻は震災後、震災復興ボランティアを通じて現地に移り住んだ方々が復興まちづくりに

関わり、既存の在住者とともに復興・創生へのあゆみを進めている地域でもあり、そうした新しい価値を生み出しながらコミュニティに関わろうとする移住者の取り組みにも学ぶ。

併せて武蔵野市のコミュニティづくりの取り組みについて学び、武蔵野市の地域の支えあいづくりにどのように取り組んでいるかを知ることを試みる。

これらを通じて、参加者の皆さんが住む地域のつながりづくりについて、参加者1人1人が自分の考えを述べるができるようになること、また地域に関わるきっかけとなることを目指す。

【現地での主な行程】 ※詳細は事前学習やミーティングなどを経て、決定します。

2月8日（木）：東京駅集合、東北新幹線で仙台、仙石東北ラインで石巻へ移動、  
旧大川小学校見学、NPO 法人 DoTank みやぎ 遠藤理事長講演 ほか

2月9日（金）：現地プログラム（詳細未定）

2月10日（土）：一般社団法人フィッシャーマンジャパンによる漁業体験プログラム（予定）  
3日間のふりかえり、14:00 頃石巻駅にて解散

・宿泊場所：調整中

・現地受け入れ予定団体：特定非営利活動法人 DoTank みやぎ (<http://npo-dtm.com/>)  
一般社団法人フィッシャーマンジャパン (<https://fishermanjapan.com/>)

【プロジェクト全体の予定】

このプロジェクトは、「事前学習」「現地訪問」「成果報告会（および報告資料の作成）」によって構成されます。事前・事後学習の内容の詳細は、参加者決定後のミーティングなどでも話し合っ決定します。

11月上旬または下旬：第1回事前学習会（いしのまき・ふくしま両プロジェクト合同）

12月中旬：第2回事前学習会「災害を実体験する-防災館での災害体験-」（予定）

1月下旬：直前ミーティング

2月下旬：直後ミーティング

事後学習会「武蔵野市のコミュニティづくりの取り組みについて」（予定）

3月下旬：成果報告会（いしのまき・ふくしま両プロジェクト合同）

※上記のほか、必要に応じてミーティングが行われることがあります。

【費用について】

① 往路交通費、② 宿泊費、③ 現地での移動に関する費用、④ 現地での朝食・夕食の費用は大学および Gakuvo で負担します。帰りの石巻駅からの交通費ならびに、昼食の費用は、各自の負担となります。

※自己負担費用の目安：交通費 → 新幹線はやぶさ指定席 11540 円（石巻～仙台～東京）

※内訳：乗車券：5940 円 特急券：5600 円

（時期、乗車する列車により変動する場合があります）

高速バス 3000 円～7000 円程度（仙台～東京・新宿）※仙台-石巻 JR 線 840 円

食費 → 3000 円程度

## ② ふくしまプロジェクト

・日程：2018年2月21日（水）～23日（金） 2泊3日

・目的：福島県は、津波被害のほか原発事故による影響を受けている地域である。その課題は、岩手県や宮城県での津波被害とはまた違った問題であり、「(東日本大震災からの)復興」を考える上において、岩手や宮城を訪問した人にとっても再考を迫られるものである。

沿岸部の被害のみに留まらず、内陸部においても原発事故による風評被害、直接的被害を受けている。若い世代が福島県南部や仙台市、首都圏などに流出し、高齢化が進むなど郊外ならではの課題を抱えているが、県外からボランティア活動をきっかけに若い世代が訪れ、現地の方と交流する取り組みも行われている。

福島プロジェクトでは、

(1) 原発事故が福島県の問題というだけでなく、日本社会全体の問題であり、私たちの生活・暮らしと密接に関わっていることについて学ぶ。

(2) 上記の課題に、武蔵野市から何とかしようとしている方々の思いに触れ、東京にいて私たちに何ができるかを考え、自分なりの考えを持つことを目指す。

(3) 原発事故による暮らしの喪失、風評被害等による産業への影響という現実を抱えながら、そこから次への一歩を踏み出そうとしている方々の思いに触れ、これからの復興・創生の過程において私たちが出来ることを実践するためのきっかけをつくる。

【現地での主な行程】 ※詳細は事前学習やミーティングなどを経て、決定します。

2月21日（水）：東京駅集合、いわき湯本へ

Fスタディツアー（いわき市、檜葉町、富岡町周辺巡見）

主催：特定非営利活動法人ふよう土 2100

2月22日（木）：伊達市へ移動、

2月23日（金）：Date Machinaka Winery 訪問、体験プログラム（予定）

3日間のふりかえり、現地解散

・宿泊場所（予定）：いわき市→元禄彩雅宿「古滝屋」

伊達市→つきだて花工房

・現地受け入れ予定団体：特定非営利活動法人ふよう土 2100 (<http://npo-fuyodo2100.org/>)

【プロジェクト全体の予定】

このプロジェクトは、「事前学習」「現地訪問」「成果報告会（および報告資料の作成）」によって構成されます。事前・事後学習の内容は、参加者決定後のミーティングなどでも話し合っ  
て決定します。

11月上旬または下旬：第1回事前学習会（いしのまき・ふくしま両プロジェクト合同）

12月中旬：第2回事前学習会「実際に福島を訪れた学生の話」（予定）

1月下旬：直前ミーティング

2月下旬：直後ミーティング

事後学習会「武蔵野市における原発事故広域避難者受け入れの取り組み」（予定）

3月下旬：成果報告会（いしのまき・ふくしま両プロジェクト合同）

※上記のほか、必要に応じてミーティングが行われることがあります。

【費用について】

① 往路交通費、② 宿泊費、③ 現地での移動に関する費用、④ 現地での朝食・夕食の費用は大学および Gakuvo で負担します。帰りの交通費ならびに、昼食の費用は、各自の負担となります。

※自己負担費用の目安：交通費 → 新幹線やまびこ指定席 8750 円（福島～東京）

※内訳：乗車券：4750 円 特急券：4000 円

（時期、乗車する列車により変動する場合があります）

高速バス 3000 円～5000 円程度（福島～東京・新宿）

食費 → 3000 円程度

## 4. 申し込みについて

・参加対象：本学学部生、大学院生

・募集定員：各 12 名

（申込者が定員を上回った場合、申込書の応募動機に記載された内容を基に選考を行います）

・応募方法：別紙の申し込み用紙を、1号館2階ボランティア支援センター事務室に提出。

（申込用紙は、ボランティア支援センター事務室にて配布している他、ボランティア支援センターのホームページならびに Seikei Portal からダウンロードできます）

・【重要】プロジェクトの選択について

「いしのまきプロジェクト」「ふくしまプロジェクト」からそれぞれ「第1希望」「第2希望」を選んでください。（いずれか1つのみを希望する場合は、第1希望のみ印をつけてください）

現地プログラムに関し、定員に空きがあった場合のみ、いしのまき・ふくしま両プロジェクトの現地プログラムに若干名受け入れをすることを検討しています。両プロジェクトの現地プログラムに参加を希望する場合は、該当の欄に印をつけてください。

・2次募集応募〆切：2017年11月10日（金）17:00まで

※応募者には、2017年11月15日（水）17:00までにプロジェクトへの参加の可否をお知らせします。

原則 e-mail で参加可否のご連絡をいたしますので、迷惑メール設定をご確認ください。

（ドメイン指定をされている方は、jc.seikei.ac.jp ならびに jim.seikei.ac.jp からのメールを受信できるように設定しておいてください）

万が一、11月15日（水）17:00までにボランティア支援センターからツアー参加可否の連絡がない場合は、お手数ですがセンターまでお問い合わせください。

## 5. 成果報告会ならびに報告資料の作成について

3月下旬（翌年度ガイダンス時期）に、両プロジェクト合同の成果報告会を学内で開催します。成果報告会は、成蹊大学学生・教職員のほか、広く参加を呼びかける形で実施します。

現地プログラム終了後、報告会に向けて報告冊子の作成を行います。内容については参加者間で話し合いながら決定していきますので、積極的に関わってください。

## 6. その他

ツアーの記録、広報および報告資料作成のため、プログラム全般を通じて写真・動画による撮影を行うことがありますので、予めご了承ください。

【お問い合わせ先】成蹊大学ボランティア支援センター

(TEL) 0422-37-3448 (e-mail) [volunteer@jc.seikei.ac.jp](mailto:volunteer@jc.seikei.ac.jp) (Twitter) @seikei\_vc